

授業概要			
学 科	第 1 鍼灸科	学 年	3 年
単 位 数	1	必要時間数	30
担当教員	松 尾		
授業形態	講 義	教 室	ホームルーム
授業目的	<p>運動学は人間の身体運動を科学的に分析する学問であり、リハビリテーション領域の基礎知識として重要な学問になります。身体運動は一見単純に見えますが、その実極めて精緻・巧妙に制御されており、これらの原理を理解するには、解剖学や力学、生理学などの広い分野に関する知識が要求されます。</p> <p>この授業では人間の運動を構成する関節や骨格筋の機能、基礎的な力学、運動に関する神経学的な基礎知識などについて学習します。また、それらの知識をベースとして基礎的な運動である姿勢制御や歩行を理解することを目的とします。</p>		
教科書	なし		

具体的な到達目標	
目標 1	運動器（筋・骨・関節・神経）の構造と働きについて説明することができる。
目標 2	基礎的な力学の知識を用い、身体の運動について考察することができる。
目標 3	各関節の構造と運動方向、その特徴について説明することができる。
目標 4	姿勢制御や歩行について、その概要を説明することができる。

評価と試験			
前 期		後 期	
試験成績	100%		
平常点	算出方法	算出方法	
出席点	算出方法	算出方法	
その他	算出方法	算出方法	
試験日			

* 追再試験、最終再試験にて合格の場合は、平常点や出席点、その他の評価は反映されず、試験成績のみが評価対象となります。

担当教員の実務経験	
実務経験	有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/>
教員の实務経験	あん摩マッサージ指圧師・はり師・きゅう師・理学療法士の免許を有する。鍼灸あま指整骨院にて 2 年間の臨床経験あり。
実務経験をいかした教育内容	理学療法士としての臨床経験に基づく実践的な見地から、あん摩マッサージ指圧師・はり師・きゅう師に必要な運動学に関する知識を教授する。

授業の内容			
回数	日程	内容	備考
1		運動学の概要、運動の仕組み①（筋の構造と収縮、運動の指令と大きさ）	
2		運動の仕組み②（運動軸と運動自由度・運動方向、関節の構造と種類）	
3		力学の基礎①（ベクトル、力のつりあい）	
4		力学の基礎②（モーメント）	
5		力学の基礎③（てこ、運動の法則）	
6		上肢の関節と運動①（肩関節）	
7		上肢の関節と運動②（肘関節）	
8		上肢の関節と運動③（手関節、手指）	
9		下肢の関節と運動①（股関節）	
10		下肢の関節と運動②（膝関節）	
11		下肢の関節と運動③（足関節、足趾）	
12		体幹の関節と運動	
13		姿勢制御	
14		姿勢分析	
		前期試験	
15		歩行	

その他の事項

身体力学を理解するには基礎的な物理の知識が必要になります。第3回から第5回の「力学の基礎①～③」ではその辺りも含めてゆっくりと学習をしていきたいと思うので、高校で物理を選択していなかった人もなるべく食わず嫌いをせずに取り組んで頂ければと思います。

また、第6回から第11回の「上肢（下肢または体幹）の関節と運動」は解剖学で学んだ知識を基に授業を展開しますので、事前に解剖学の該当箇所を復習しておくとともに、必要であれば解剖学の教科書を持ってきてください。

質問等があれば教員室または下記アドレスへお願いします。skypeでの質問受付も可です。

担当者アドレス : s.matsuo@butsugen.or.jp

授業概要			
学 科	第 1 鍼灸科	学 年	3 年
単 位 数	3	必要時間数	60
担当教員	臼井 明宏		
授業形態	講 義	教 室	ホームルーム
授業目的	我が国が健康の保持増進のために、それぞれの家庭・学校・職場・地域社会・生活環境、食事と栄養、運動と休養、メンタルヘルス、法律・制度 をどのように発展させ活かしてきたのかの概要を学び、衛生学・公衆衛生学の現代の活動と意義について学習するとともに、鍼灸師、あま指師として必要な事項についても学習する。		
教科書	東洋療法学校協会編「衛生学・公衆衛生学 第 2 版」(医歯薬出版)		

具体的な到達目標	
目標 1	衛生学・公衆衛生学の歴史および意義について、説明することができる。
目標 2	健康およびその管理について、食品・栄養・運動と健康との関わりについて説明することができる。
目標 3	日常生活環境、環境問題と健康との関わり、労働環境などと健康との関わりについて説明することができる。
目標 4	精神の健康と精神障害について説明することができる。
目標 5	母子保健、学校保健について説明することができる。
目標 6	成人・高齢者保健、生活習慣病などについて説明することができる。
目標 7	感染症とその対策、消毒法について説明することができる。
目標 8	疫学、保健統計について説明することができる。

評価と試験			
前 期		後 期	
試験成績	100%	100%	
平常点	算出方法	算出方法	
出席点	算出方法	算出方法	
その他	算出方法	算出方法	
試験日			

* 追再試験、最終再試験にて合格の場合は、平常点や出席点、その他の評価は反映されず、試験成績のみが評価対象となります。

担当教員の実務経験	
実務経験	有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/>
教員の実務経験	あん摩マッサージ指圧師、はり師、きゅう師の免許を有する。自宅開業 3 年、他治療院 2 年の勤務経験あり。脳血管障害等のリハビリ病院にて、3 年の研修経験あり。全日本鍼灸学会認定鍼灸師、認定訪問マッサージ師、介護予防運動指導員、福祉用具専門相談員等の資格あり。本校附属治療所で 2 年間の実務経験あり。
実務経験をいかした教育内容	臨床現場での消毒、衛生操作等についても教授しながら、授業を展開する。

授業の内容			
回数	日程	内容	備考
1		シラバスの説明、第1章 衛生学・公衆衛生学の意義	
2		第2章 健康（1. 健康の概要）	
3		第2章 健康（2. 健康管理）	
4		第3章 ライフスタイルと健康（1. 食品と栄養、1）～4）	
5		第3章 ライフスタイルと健康（1. 食品と栄養、5）食中毒 2. 運動と栄養）	
6		第4章 環境と健康（1. 環境とは 2. 日常生活環境、1）物理的環境要因）	
7		第4章 環境と健康（2. 日常生活環境、2）化学的環境要因）	
8		第4章 環境と健康（2. 日常生活環境、3）生物学的環境要因）	
9		第4章 環境と健康（3. 環境問題）	
10		第5章 産業保健（1. 産業保健の意義～4. 労働災害とその対策）	
11		第5章 産業保健（5. 業務上疾病とその対策）	
12		第6章 精神保健（1. 精神保健の意義～3. 精神障害の現状と分類）	
13		第6章 精神保健（3. 精神障害の現状と分類）	
14		第7章 母子保健	
15		第1章～第7章 練習問題など	
16		第8章 学校保健（1. 学校保健法の意義～3. 保健教育）	
17		第8章 学校保健（4. 保健管理～6. 学齢期の健康状態）	
18		第9章 成人・高齢者保健（1. ～3. 生活習慣病の特徴とその対策）	
19		第9章 成人・高齢者保健（4. ～6. 難病対策の現状）	
20		第10章 感染症とその対策（1. 感染症の意義と種類）	
21		第10章 感染症とその対策（2. 発生要因～4. 免疫）	
22		第11章 消毒法（1. 消毒一般。2. 消毒の種類）	
23		第11章 消毒法（3. 消毒の実際～5. 医療廃棄物）	
24		第12章 疫学	
25		第13章 保健統計（1. 保健統計の意義、2. 主な保健統計）	
26		第13章 保健統計（3. 主要な保健統計指標）	
27		第8章～第9章 練習問題など	
28		第10章～第11章 練習問題など	
29		第12章～第13章 練習問題など	
30		全章のまとめおよび国家試験での出題傾向、臨床上必要な感染対策・消毒	

その他の事項

○配布資料

「穴埋め」が行える形式で資料を配布します。動画を視聴し、各自で書き入れ、復習がしやすいように完成させてください。

○参考書籍

『公衆衛生がみえる 2021-2022』 出版：メディックメディア

『公衆衛生（系統看護学講座 専門基礎分野 健康支援と社会保障制度[2]）』 出版：医学書院

『シンプル衛生公衆衛生学』 出版：南江堂

『よくわかる公衆衛生学の基本としくみ[第2版]』 出版：秀和システム

『新衛生・公衆衛生学』 出版：日本医事新報社

※その他、生理学、病理学、臨床医学各論などの教科書(東洋療法学校協会)を参考にしています。

○連絡先

usui@butsugen.or.jp

授業概要			
学 科	第 1 鍼灸科	学 年	3 年
単 位 数	2	必要時間数	30
担当教員	下宮 啓佑		
授業形態	講 義	教 室	ホームルーム
授業目的	<p>はきの施術を行う上で、各疾患の現代医学的な成因、病態、症候、診断および治療について理解する。</p> <p>また、本授業の履修により、臨床現場におけるはき施術の適否・各疾患の鑑別の説明、治療の方針の検討を行うことを目的とする。</p>		
教科書	東洋療法学校協会編、臨床医学各論 第2版、医歯薬出版株式会社		

具体的な到達目標	
目標 1	第 9 章循環器疾患に関する成因、病態、症候、診断および治療について説明することができる。
目標 2	第 10 章血液・造血器疾患に関する成因、病態、症候、診断および治療について説明することができる。
目標 3	第 12 章膠原病・リウマチ性疾患に関する成因、病態、症候、診断および治療について説明することができる。
目標 4	
目標 5	
目標 6	
目標 7	
目標 8	
目標 9	
目標 10	

評価と試験			
前 期		後 期	
試験成績	100%		
平常点	算出方法	算出方法	
出席点	算出方法	算出方法	
その他	算出方法	算出方法	
試験日			

* 追再試験、最終再試験にて合格の場合は、平常点や出席点、その他の評価は反映されず、試験成績のみが評価対象となります。

担当教員の実務経験	
実務経験	有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/>
教員の实務経験	
実務経験をいかした教育内容	

授業の内容			
回数	日程	内容	備考
1		オリエンテーション、シラバスについて	
2		心不全について	
3		心臓弁膜疾患について	
4		不整脈、その他の代表的な先天性疾患について	
5		冠動脈疾患（狭心症、心筋梗塞）について	
6		動脈疾患（動脈硬化症、大動脈瘤、大動脈解離など）について	
7		血圧異常（高血圧・低血圧）について	
8		心筋・心膜疾患（特発性心筋症、心筋炎、心膜炎、心タンポナーデ）について	
9		赤血球疾患（鉄欠乏性貧血、巨赤芽球性貧血、溶血性貧血、再生不良性貧血）について	
10		白血球疾患（白血病、多発性骨髄腫）について	
11		リンパ網内系疾患（悪性リンパ腫）、出血性素因（紫斑病・血友病など）について	
12		リウマチ性疾患（関節リウマチ）について	
13		膠原病（SLE、全身性硬化症、ベーチェット病など）について	
14		その他の膠原病について	
15		第9章・第10章・第12章のまとめ	

その他の事項

担当教員アドレス：shimomiya@butsugen.or.jp

授業概要			
学 科	第 1 鍼灸科	学 年	3 年
単 位 数	3	必要時間数	60
担当教員	黒木 裕士		
授業形態	講 義	教 室	ホームルーム
授業目的	リハビリテーション医学の全体を理解する。具体的には、リハビリテーション医学の歴史と現状、対象疾患、治療手段・方法について学習し、各種疾患等の個別リハビリテーション対応を説明できることを授業目的とする。		
教科書	東洋療法学校協会編、リハビリテーション医学、第 4 版、医歯薬出版株式会社 上田敏著、目でみるリハビリテーション医学、第 2 版、東京大学出版会		

具体的な到達目標	
目標 1	リハビリテーションの理念と組織について説明できる。
目標 2	廃用症候群、過用症候、誤用症候、徒手筋力検査と関節可動域測定について説明できる。
目標 3	装具、杖、自助具、車椅子について説明できる。
目標 4	主要な大関節の運動学、および正常歩行と異常歩行について説明できる。
目標 5	脳卒中のリハビリテーションについて説明できる。
目標 6	脊髄損傷のリハビリテーションについて説明できる。
目標 7	切断のリハビリテーションについて説明できる。
目標 8	小児のリハビリテーションについて説明できる。
目標 9	五十肩、変形性膝関節症、変形性股関節症、大腿骨頸部骨折、スポーツ障害、関節リウマチ、末梢神経障害の各リハビリテーションについて説明できる。
目標 10	パーキンソン病、呼吸器疾患、心疾患の各リハビリテーションについて説明できる。

評価と試験			
前 期		後 期	
試験成績	100%	100%	
平常点	0% 算出方法	0% 算出方法	
出席点	0% 算出方法	0% 算出方法	
その他	0% 算出方法	0% 算出方法	
試験日			

* 追再試験、最終再試験にて合格の場合は、平常点や出席点、その他の評価は反映されず、試験成績のみが評価対象となります。

担当教員の実務経験	
実務経験	有 <input type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/>
教員の实務経験	
実務経験をいかした教育内容	

授業の内容			
回数	日程	内容	備考
1		リハビリテーションの語源	
2		ノーマライゼーション、自立生活運動、障害構造、障害受容	
3		リハビリテーションの4領域、障害者雇用と特例子会社	
4		地域リハビリテーション、退院後の生活	
5		廃用症候群	
6		過用症候、誤用症候	
7		共同運動、連合運動、姿勢反射	
8		運動学とリハビリテーション医学	
9		機能回復の生理学とリハビリテーション医学	
10		運動治療学とリハビリテーション医学	
11		脳卒中のリハビリテーション概説	
12		脊髄損傷のリハビリテーション概説	
13		切断・小児・骨関節疾患・関節リウマチのリハビリテーション概説	
14		内部障害・がんのリハビリテーション概説	
15		脳卒中急性期のリハビリテーション各論1（急性期）	
16		脳卒中リハビリテーション各論2（回復期、リスク管理、ゴール）	
17		脊髄損傷リハビリテーション各論1（急性期）	
18		脊髄損傷各論2（回復期、脊髄損傷ケアとリスク管理、切断と合併症）	
19		切断のリハビリテーション各論	
20		小児のリハビリテーション各論	
21		いわゆる五十肩・頸腕障害・変形性膝関節症のリハビリテーション各論	
22		変形性股関節症・大腿骨頸部骨折・スポーツ障害のリハビリテーション各論	
23		関節リウマチのリハビリテーション各論	
24		末梢神経障害のリハビリテーション各論	
25		パーキンソン病のリハビリテーション各論	
26		呼吸器疾患のリハビリテーション各論	
27		心疾患のリハビリテーション各論	
28		リハビリテーションと障害、リハビリテーション医学と医療、心身機能・身体構造の評価、活動の評価、参加の評価、合併症の評価、運動麻痺の評価	
29		運動年齢テスト、失行失認テスト、摂食嚥下障害評価、装具、杖、自助具、車椅子、義肢	
30		関節と関節の力学、姿勢とその異常、脊柱・体幹、肩甲骨・肩、肘と前腕、手と手指、骨盤と股関節、膝関節、足関節、正常歩行と異常歩行、顔面および頭部の筋	

その他の事項

毎回の授業冒頭では、前回の授業の不明点等について質問時間を設けます。教科書だけでなく、動画等を用いることがあります。

授業概要			
学 科	第 1 鍼灸科	学 年	3 年
単 位 数	2	必要時間数	30
担当教員	松浦 穰士		
授業形態	講 義	教 室	ホームルーム
授業目的	鍼灸治療の臨床の場においてよく遭遇する疾患・症状に対して、正経や奇経を用い治療法を考察する力をつける。また、奇穴や特効穴、頭皮鍼・髪際鍼なども紹介するので、実際に使用する意義や方法などを学習する。		
教科書	教科書は指定しない		

具体的な到達目標	
目標 1	経穴の取穴や部位だけでなく臨床にあった取穴術を理解する
目標 2	正経だけでなく、奇穴など特効穴を配穴できる。
目標 3	頭皮鍼・髪際鍼の方法を理解する。
目標 4	鍼灸院で良く見る疾患について、問診や治療法の配穴を自分で決める。
目標 5	
目標 6	
目標 7	
目標 8	
目標 9	
目標 10	

評価と試験			
前 期		後 期	
試験成績	90%		
平常点	10%	算出方法 小テスト	算出方法
出席点		算出方法	算出方法
その他		算出方法	算出方法
試験日			

* 追再試験、最終再試験にて合格の場合は、平常点や出席点、その他の評価は反映されず、試験成績のみが評価対象となります。

担当教員の実務経験	
実務経験	有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/>
教員の实務経験	鍼灸師の免許を有する。鍼灸治療院にて 21 年の臨床経験あり。
実務経験をいかした教育内容	鍼灸治療院において、特に遭遇することの多い疾患に対して、診断や配穴方法を紹介する。

授業の内容			
回数	日程	内容	備考
1		ガイダンス・手の陰経の主要穴	
2		手の陽経の主要穴	
3		足の陰経の主要穴	
4		足の陽経の主要穴	
5		正経十二経のまとめ	
6		腹部・背部の主要穴	
7		頭部・顔面部の主要穴	
8		奇経八脈の治療法	
9		消化器疾患に対する治療法	
10		糖尿病に対する治療法	
11		心の病に対する治療法	
12		自律神経症状に対する治療法	
13		頭皮鍼・頭髪際鍼の方法	
14		良導絡治療の実際	
15		沢田流太極療法・開業するために必要なこと	

その他の事項

実際の臨床で特に効果のある経絡・経穴を紹介するのでぜひしっかりと学習してください。経穴の部位がまだしっかりと入っていない人は予習をして来てください。

授業概要			
学 科	第1鍼灸科	学 年	3 年
単 位 数	3	必要時間数	48
担当教員	勢志 有次		
授業形態	講 義	教 室	ホームルーム
授業目的	平成26年4月開催の第100回社会保障審議会給付費分科会の地域包括ケアシステムの中の資料に“鍼灸師”の名前が明記され、医師・看護師、ケアマネージャーをはじめとする多彩な職種のスタッフと互いの専門性を活かしながら連携する「チーム医療」の一員としての役割が求められています。そのため、本講義では臨床上遭遇しやすい症候・疾病に対し、チーム医療として必要な共通言語及び東洋医学の専門性、特に鑑別診断と鍼灸治療を学習する。		
教科書	東洋療法学校協会編、新版東洋医学臨床論〈はりきゅう編〉、南江堂、2022年		

具体的な到達目標	
目標1	疾患概念と症状を述べることができる〔現代医学分野〕
目標2	類似する疾患群の鑑別診断の要点を述べることができる〔現代医学分野〕
目標3	鍼灸適応の場合の治療穴を述べるができる
目標4	各疾患の分類について説明ができる〔東洋医学分野〕
目標5	各疾患について病因病機を説明することができる
目標6	八綱弁証及び気血津液弁証、臓腑弁証の応用ができる
目標7	東洋医学的配穴の根拠を述べることができる
目標8	代表的な徒手検査法について名称、方法、病巣について述べるができる
目標9	
目標10	

評価と試験			
前 期		後 期	
試験成績	90%		
平常点	算出方法		算出方法
出席点	10%	算出方法 欠席1回減点2点、遅刻1回減点1点	算出方法
その他	算出方法		算出方法
試験日			

* 追再試験、最終再試験にて合格の場合は、平常点や出席点、その他の評価は反映されず、試験成績のみが評価対象となります。

担当教員の実務経験	
実務経験	有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/>
教員の实務経験	鍼灸師の免許を有する。鍼灸治療院を開院し、5年間の臨床経験あり。
実務経験をいかした教育内容	鍼灸臨床の現場において特に遭遇する頻度の高い疾患、症状に対して基本的な診断ならびに治療方法を学ぶ。

授業の内容			
回数	日程	内容	備考
1		ガイダンス、Ⅱ. 頭痛に対する東西医学の鑑別と鍼灸治療（1）	
2		Ⅱ. 頭痛に対する東西医学の鑑別と鍼灸治療（2）、Ⅰ. 概説	
3		Ⅲ. 顔面痛に対する東西医学の鑑別と鍼灸治療	
4		第4節 その他の症候 Ⅰ. 顔面麻痺に対する東西医学の鑑別と鍼灸治療（1）	
5		第4節 その他の症候 Ⅰ. 顔面麻痺に対する東西医学の鑑別と鍼灸治療（2）	
6		V. 頸肩腕痛に対する東西医学の鑑別と鍼灸治療	
7		VI. 上肢痛に対する東西医学の鑑別と鍼灸治療	
8		VII. 肩関節痛に対する東西医学の鑑別と鍼灸治療	
9		VIII. 腰下肢痛に対する東西医学の鑑別と鍼灸治療	
10		IX. 腰痛に対する東西医学の鑑別と鍼灸治療	
11		X. 下肢痛に対する東西医学の鑑別と鍼灸治療	
12		第4節 その他の症候 Ⅱ. 歩行異常に対する東西医学の鑑別と鍼灸治療（1）	
13		XI. 膝痛、IV関節痛に対する東西医学の鑑別と鍼灸治療	
14		運動器疾患 復習・まとめ ①	
15		運動器疾患 復習・まとめ ②	
16		2-3 脾系統 VII. 歯痛に対する東西医学の鑑別と鍼灸治療	
17		2-1 肝系統 Ⅰ. 眼精疲労に対する東西医学の鑑別と鍼灸治療	
18		2-1 肝系統 Ⅲ. めまいに対する東西医学の鑑別と鍼灸治療	
19		2-5 腎系統 Ⅱ. 耳鳴り・難聴に対する東西医学の鑑別と鍼灸治療	
20		2-5 腎系統 Ⅰ. 脱毛症に対する東西医学の鑑別と鍼灸治療	
21		第4節 その他の症候 Ⅲ. 口渇に対する東西医学の鑑別と鍼灸治療（1）	
22		第4節 その他の症候 Ⅳ. 出血傾向に対する東西医学の鑑別と鍼灸治療（1）	
23		2-1 肝系統 Ⅱ. 気分障害に対する東西医学の鑑別と鍼灸治療	
24		全期 まとめ（実技等）	

その他の事項

【学習アドバイス】

知識として要求されるのは、『臨床医学総論』、『臨床医学各論』、『経絡経穴概論』、『東洋医学概論』の分野です。この科目は単独で学習する類のものではなく、他の科目の知識がいかにかに身についているかが問われるものと言えますので、まずは上記科目をしっかりと確認することが必要です。そのためにも授業前後、または授業中にわからない項目についてその都度、上記4科目の教科書・ノートを確認するようにしてください。

授業概要			
学 科	第1鍼灸科	学 年	3 年
単 位 数	2	必要時間数	32
担当教員	村上 朱保		
授業形態	講 義	教 室	ホームルーム
授業目的	はり師きゅう師およびあんま・指圧・マッサージ師は、臨床の現場において治療を安全に実施する必要があり、各症候、疾病の鍼灸などによる治療の適不適を正しく判断し、時に緊急を要する病態、医療機関での受療を必要とする疾患を見極め、適切な処置および治療を行うことが必要とされる。そのため、西洋医学及び東洋医学それぞれの病態把握、治療方針を導き、治療の選択が可能となることを目的とし、各症候をひき起こす病態、疾患の特徴と鑑別、西洋医学的病態生理に基づく治療方針と治療、東洋医学的病態把握、治療方針、治療について学習する。		
教科書	東洋療法学校協会編、教科書検討小委員会著、新版東洋医学臨床論〈はりきゅう編〉、南江堂、2022年		

具体的な到達目標	
目標1	各症候を引き起こす西洋医学的な病態および疾患を説明することができる。
目標2	各症候を引き起こす西洋医学的な病態および疾患を鑑別することができる。
目標3	各症候を引き起こす西洋医学的な病態および疾患を鑑別し、鍼灸治療の適不適を判断することができる。
目標4	各症候を引き起こす西洋医学的な病態および疾患に基づき治療を選択することができる。
目標5	各症候を引き起こす西洋医学的な病態および疾患に基づき生活指導を行うことができる。
目標6	各症候の鍼灸治療が適応となる病態、疾患について、東洋医学的弁証論治を説明することができる。
目標7	
目標8	
目標9	
目標10	

評価と試験			
前 期		後 期	
試験成績	100%		
平常点	0%	算出方法	算出方法
出席点	0%	算出方法	算出方法
その他		算出方法	算出方法
試験日			

* 追再試験、最終再試験にて合格の場合は、平常点や出席点、その他の評価は反映されず、試験成績のみが評価対象となります。

担当教員の實務経験	
實務経験	有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/>
教員の實務経験	臨床検査技師、はり師きゅう師の免許を有する。臨床検査技師として病院で10年9か月、鍼灸師として9年間の臨床経験あり。また中国の大学病院において卒業実習1年、中醫師研修として5年間の實務経験あり。教員経験6年。

**実務経験
をいかした
教育内容**

臨床の現場で遭遇する可能性のある症候について、その病態や疾患による症状、西洋医学的診察や各種検査による鑑別と治療、東洋医学での辨証論治について説明する。

授業の内容

回数	日程	内容	備考
1		オリエンテーション、第2章 第1節 VII 胸痛	
2		第2章 第1節 VII 胸痛	
3		第2章 第1節 VIII 腹痛	
4		第2章 第1節 VIII 腹痛	
5		第2章 第1節 VIII 腹痛、第2節 2-3 IV 悪心・嘔吐	
6		第2章 第2節 第2節 2-3 V 便秘	
7		第2章 第2節 第2節 2-3 VI 下痢	
8		第2章 第2節 第2節 2-4 I 咳嗽と喀痰	
9		第2章 第2節 2-4 II 呼吸困難、2-4 III 鼻閉・鼻汁	
10		第2章 第2節 2-5 III 排尿障害	
11		第2章 第2節 2-5 III 排尿障害、2-5 IV ED	
12		第2章 第5節 I 概説、II 月経異常	
13		第2章 第5節 II 月経異常	
14		第2章 第5節 III 性器出血、IV 帯下	
15		第2章 第5節 V 不妊症、VI つわり	
16		第2章 第5節 VII 骨盤位（逆子）、VIII 乳汁分泌不全	

その他の事項

授業動画は多少前後する可能性があります。ご了承願います。

授業概要			
学 科	第 1 鍼灸科	学 年	3 年
単 位 数	3	必要時間数	90
担当教員	樋口 雅一 / 臼井 明宏 / 金井 優也 / 岩本 奈己		
授業形態	実 習	教 室	第 3 実技室
授業目的	運動器疾患を中心に、各部位の症状を鍼灸施術により改善できるようになる。臨床で遭遇しやすい疾患に対し、代表的な治療穴を用いた施術ができるようになる。卒業時に自信をもって鍼灸施術に臨めるように準備をする。 また、各症候の東洋医学的、現代医学的な考え方を理解し、特殊鍼灸術を含めた鍼灸実技が安全に行うことが出来る。病態に合わせた鍼灸実技を選択することが出来る。		
教科書	教科書は指定しない		

具体的な到達目標	
目標 1	治療経穴を自分で選択できるようになる。
目標 2	症状の改善過程を説明できる。
目標 3	特定の筋肉を指標に鍼灸施術ができる。
目標 4	目的とする場所に鍼灸を誘導できる。
目標 5	思い通りの温度で施灸ができる。
目標 6	特殊鍼灸術を含めた鍼灸実技が安全に行うことが出来る。
目標 7	病態に応じた鍼灸を選択することが出来る。

評価と試験					
前 期			後 期		
試験成績	50%		50%		
平常点	20%	算出方法	授業への参加姿勢、課題	20%	算出方法
出席点	30%	算出方法	欠席 2 点減点・遅刻 1 点減点	30%	算出方法
その他		算出方法			算出方法
試験日					

*追再試験、最終再試験にて合格の場合は、平常点や出席点、その他の評価は反映されず、試験成績のみが評価対象となります。

担当教員の実務経験	
実務経験	有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/>
教員の实務経験	(樋口) 鍼灸師免許を有する。鍼灸治療院にて 20 年以上の臨床経験あり。V リーグ (バレーボール) トレーナー。 (臼井) あん摩マッサージ指圧師、はり師、きゅう師の免許を有する。自宅開業 3 年、他治療院 2 年の勤務経験あり。脳血管障害等のリハビリ病院にて、3 年の研修経験あり。認定訪問マッサージ師の資格あり。本校附属治療所で 2 年間の実務経験あり。 (金井) はり師・きゅう師の免許を有する。免許取得後、教員養成科時代に附属治療院にて 2 年間の実務経験あり。鍼灸治療院にて 2 年間の勤務経験あり。本校附属治療所で 3 年間の実務経験あり。 (岩本) はり師・きゅう師の免許を有する。教員養成科附属治療院で 2 年の実務経験あり。
実務経験をいかした教育内容	鍼灸を行う事によりどの様な症状を改善できるのか、またどの様な経過をたどり改善していくのかを伝える。鍼灸に携わるようになった頃から現在までの感覚の変化も伝えたい。 また、臨床現場で想定しうる疾患に対し、あらゆる観点を踏まえ効果的な治療方法を体現する。具体的な症例、臨床例を列挙しながら授業を展開する。

授業の内容			
回数	日程	内容	備考
1		ガイダンス・穴の概念と捉え方。無痛鍼の打ち方・効かす灸のすえ方	担当 樋口
2		足部の触診	
3		外反母趾・足底筋膜炎の鍼灸治療	
4		足関節捻挫の鍼灸治療	
5		アキレス腱炎の鍼灸治療	
6		シンスプリント・コンパートメント症候群の鍼灸治療	
7		膝関節の触診	
8		オスグッドシュラッター病・膝水腫の鍼灸治療	
9		膝関節症状に対する灸治療	
10		大腿部前面の筋膜症・肉離れの鍼灸治療	
11		大腿部後面の筋膜症・肉離れの鍼灸治療	
12		股関節・鼠径部の触診と鍼灸治療	
13		小児鍼	
14		手部の触診・手部の特効穴	
15		手根管症候群・ドゥケルバン症候群の鍼灸治療	
16		前期試験	
17		肘の触診・内側上顆炎の鍼灸治療	
18		外側上顆炎の鍼灸治療	
19		肩関節の触診	
20		肩関節周囲炎（前面）の鍼灸治療	
21		肩関節周囲炎（後面）の鍼灸治療	
22		胸郭出口症候群の鍼灸治療	
23		寝違い・後頸部の鍼灸治療	
24		頭痛に対する鍼灸治療	
25		顔面神経麻痺・三叉神経痛の鍼灸治療	
26		頸肩部の凝りに対する鍼灸治療	
27		頸肩背部の遠隔治療	
28		急性腰痛の鍼灸治療	
29		慢性腰痛の鍼灸治療	
30		後期試験	ここまで、担当樋口
31		鍼通電 概要 上肢	担当 金井
32		鍼通電 下肢	担当 金井
33		鍼通電 神経パルス	担当 金井
34		鍼通電 まとめ	担当 臼井

授業概要			
学 科	第 1 鍼灸科	学 年	3 年
単 位 数	3	必要時間数	1 3 5
担当教員	松尾/上田/臼井/佐藤/棟居/下宮/高橋/金井/西田/田中/岩本		
授業形態	実 習	教 室	臨床実習室
授業目的	臨床に出て適切に対処できる最低限の知識、技術を身につける。 施術者としての自覚を持ち、安全性を十分に考慮した上で施術ができるようになる。 「東洋医学的」、「現代医学的」両面から収集した情報をもとに適切な対処ができる。 授業で学んだ検査や四診を活用し、患者の病態を把握できるようになる。		
教科書	臨床実習の手引き		

具体的な到達目標	
目標 1	施術者としての自覚を持ち、臨床実習に相応しい身だしなみ、態度で積極的に参加することができる。
目標 2	患者の「受入れ・医療面接・触診（切診）・検査法・病態把握・施術方針の決定・施術・評価」の流れをスムーズに行うことができる。
目標 3	安全かつ適切な対処や施術ができる。
目標 4	「東洋医学的」「現代医学的」な病態把握に基づく施術ができる。

評価と試験			
	前 期		後 期
平常点	算出方法 後期に準ずる	41 点	算出方法 その他の事項に記載
出席点	算出方法 後期に準ずる	59 点	算出方法 その他の事項に記載
その他	算出方法	0 点	算出方法
試験日			

* 追再試験、最終再試験にて合格の場合は、平常点や出席点、その他の評価は反映されず、試験成績のみが評価対象となります。

担当教員の実務経験	
実務経験	有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/>
教員の实務経験	〔臼井〕あん摩マッサージ指圧師、はり師、きゅう師の免許を有する。自宅開業 4 年、他治療院 2 年の勤務経験あり。脳血管障害等のリハビリ病院にて、3 年の研修経験あり。全日本鍼灸学会認定鍼灸師、認定訪問マッサージ師、介護予防運動指導員、福祉用具専門相談員等の資格あり。本校附属治療所で 2 年間の実務経験あり。 〔上田〕あん摩マッサージ指圧師・はり師・きゅう師の免許を有する。あはき施術管理者。教員養成科附属治療院にて 2 年、鍼灸あま指治療院にて 2 年間、往診専門で開業 5 年、本校附属治療所で 7 年間の実務経験あり。 〔松尾〕あん摩マッサージ指圧師・はり師・きゅう師・理学療法士の免許を有する。鍼灸あま指整骨院にて 2 年間の臨床経験あり。本校附属治療所で 9 年間の実務経験あり。 〔佐藤〕あん摩マッサージ指圧師・はり師・きゅう師の免許を有する。クリニック内リハビリテーション科において 7 年間の臨床経験あり。本校附属治療所で 11 年間の実務経験あり。 〔田中〕あん摩マッサージ指圧師・はり師・きゅう師の免許を有する。教員養成学科附属治療院で 2 年、あはき整骨院で 2 年間、出張開業で 1 年の実務経験あり。 〔棟居〕はり師・きゅう師の免許を有する。鍼灸院にて 9 年間の実務経験あり。教員養成科附属治療院にて 2 年間、往

診専門で2年間、本校附属治療所で12年間の実務経験あり。

〔下宮〕はり師・きゅう師の免許を有する。整形外科、鍼灸整骨院にて4年間の経験あり。他校附属治療院にて6年間の実務経験あり。本校附属治療所で3年間の実務経験あり。

〔高橋〕はり師・きゅう師の免許を有する。免許取得後、教員養成科時代に附属治療院にて2年間の実務経験あり。本校附属治療所で3年間の実務経験あり。

〔金井〕はり師・きゅう師の免許を有する。免許取得後、教員養成科時代に附属治療院にて2年間の実務経験あり。鍼灸治療院にて2年間の勤務経験あり。本校附属治療所で3年間の実務経験あり。

〔西田〕はり師・きゅう師の免許を有する。全日本鍼灸学会認定鍼灸師。5年間大学附属鍼灸センターにて治療経験あり。大学附属病院外科にて1年の研修経験あり。教員として学校附属治療院で3年、訪問出張施術で1年の臨床経験あり。本校附属治療所で2年間の実務経験あり。

〔岩本〕はり師・きゅう師の免許を有する。教員養成科附属治療院で2年の実務経験あり。

実務経験をいかした教育内容

(鍼灸)
鍼灸師にとって必要な東洋医学的理論に基づく治療配穴や刺鍼および施灸方法とその刺激の調整について教育する。また、西洋医学理論に基づく筋肉や神経に対して、適切な鍼の深度と角度で施術ができ、必要に応じて施灸をすることができるように教育する。

授業の内容

回数	内容	備考
1～135	来所患者に対し、教員管理のもと施術を行う。	

その他の事項

<出席点>59点

- ・総授業数の3/4以上の出席をもって59点とする。出席が3/4に満たない場合、加点はしない。

<平常点>41点

【減点方式】 下限40点

- ・日々の臨床実習に臨む姿勢(身だしなみ、道具の忘れ、授業態度など)
- ・「欠席届(欠課・遅刻)」の提出(当日欠課の場合、事前の電話連絡の有無など)
- ・令和4年7月～9月の欠課、令和5年1月以降の欠課、前出以外の期末試験前日及び当日の欠課

【加点方式】 上限41点

- ・ポートフォリオの提出(4月から)
- ・月初めに掲げたパーソナルポートフォリオ、テーマポートフォリオを作成し、その成果を纏めたものを月末に提出する。
- ・評価は、優(5点)、良(3点)、可(1点)の3段階とする。
- ・年間を通じて8回実施する。提出が1度もされなかった場合、臨床実習Ⅱの平常点は0点となり、単位未習得になるため注意
- ・8回すべて提出した場合、ポートフォリオの評価とは別に加点1点とする。

35		経筋治療	担当 金井
36		接触鍼	担当 金井
37		灸頭鍼 概要 腰下肢	担当 臼井
38		灸頭鍼 背部など	担当 臼井
39		棒灸	担当 岩本
40		隔物灸	担当 岩本
41		箱灸	担当 岩本
42		奇経治療	担当 臼井
43		皮内鍼・円皮鍼	担当 岩本
44		耳鍼	担当 岩本
45		特殊鍼灸のまとめ	担当 臼井

その他の事項

○授業に関して

ホワイトボードに図等を描くことがあります。必要な方は紙に書いてください。

写真など画像に残す・講義の録音は原則禁止とします。

○平常点について

①紙上の施灸

60 壮の紙上の施灸を 50 枚実施とします(合計 3,000 壮)。毎月初めに、各担任より 10 枚ずつ施灸用の紙を配布しますので、月末までに各担任へ提出をしてください(4 月、5 月、6 月、7 月、9 月に実施とする)。

提出枚数により、20 点中(20%中)、35 枚提出にて平常点 12 点、40 枚提出にて平常点 16 点、50 枚提出にて平常点 20 点とします。

②その他減点(上記、枚数による平常点より、減点となります)

実技道具や実習着忘れ 1 回につき 2 点減点 無断欠席・遅刻 1 回につき 2 点減点

授業中の無駄な私語や教員の指示に従わない場合 1 回につき 5 点減点

○実技実習の到達目標

鍼：目標 課題に対して誤差なく、決められた刺法で刺入ができること。

【深度】3 年生は± 2mm 以内で刺入できることを最低ラインの目標とする。 ※但し、目的の深度が 1cm の場合は下限を 7mm とする。

【角度】(直刺) 90° を目標として刺鍼する。3 年生は誤差± 10° 以内で刺入できることを最低ラインの目標とする。

(斜刺) 30° から 60° であるが、基本 45° を目標として刺鍼する。3 年生は指定された角度に対し± 10° 以内

※斜刺は流注に沿っての角度を計測することとする。

灸：目標 人体に対して 3 分間に 12 壮、半米粒大の透熱灸(緩和あり)ができること。

【形・大きさ・壮数・方法・時間】3 年生は 3 分間に米粒大 10 壮、半米粒大 12 壮

授業概要			
学 科	第1鍼灸科	学 年	3 年
単 位 数	3	必要時間数	60
担当教員	樋口 雅一		
授業形態	講 義	教 室	ホームルーム
授業目的	<p>スポーツ選手の施術を目標とされている方は勿論、一般の患者さんの施術を目標とされている方も実際現場に出てみると、プレーレベルの差はあるにせよスポーツによる身体の不調を訴える選手や患者さんを診る場面は多くあると思います。適切な施術は勿論の事、時には西洋医学に委ねなければならない場面もあります。</p> <p>西洋医学に委ねなければならないのか、それとも適切な施術により回復が見込めるのかの判断ができる様、スポーツしょうがいの発生機序と施術方法を学習する。</p>		
教科書	教科書は指定しない。授業内でプリントを配布する事があります。		

具体的な到達目標	
目標1	しょうがいの発生機序が説明できる。
目標2	しょうがいに関係する筋肉・神経の走行が説明できる。
目標3	しょうがいに関係する筋肉・骨の触診ができる。
目標4	西洋医学での診断が必要かの判断ができる。

評価と試験			
前 期		後 期	
試験成績	90%	90%	
平常点	10%	10%	算出方法 授業態度・参加姿勢
出席点	算出方法	算出方法	
その他	算出方法	算出方法	
試験日			

*追再試験、最終再試験にて合格の場合は、平常点や出席点、その他の評価は反映されず、試験成績のみが評価対象となります。

担当教員の実務経験

実務経験 有 無

教員の实務経験

鍼灸師免許を有する。
鍼灸治療院にて20年以上の臨床経験あり。
Vリーグ（バレーボール）トレーナー

実務経験をいかした教育内容

鍼灸院および現場でのスポーツ選手のケアの経験より、スポーツしょうがいの発生機序・施術法説明

授業の内容

回数	日程	内容	備考
1		ガイダンス、足部の骨	
2		足部の機能解剖・しょうがい	
3		足部の機能解剖・しょうがい	
4		足部しょうがいと支点	
5		足部まとめ	
6		足関節の機能解剖・しょうがい	
7		足関節の機能解剖・しょうがい	
8		下腿部の機能解剖・しょうがい	
9		下腿部の機能解剖・しょうがい	
10		膝関節の機能解剖・しょうがい	
11		膝関節の機能解剖・しょうがい	
12		大腿部の機能解剖・しょうがい	
13		股関節・殿部の機能解剖・しょうがい	
14		股関節・殿部の機能解剖・しょうがい	
15		下肢まとめ	
		前期期末試験	
16		手部の機能解剖	
17		前腕・肘部の機能解剖・しょうがい	
18		肘部の機能解剖・しょうがい	
19		手部～肘部まとめ	
20		肩関節の機能解剖	
21		肩関節の機能解剖・しょうがい	
22		肩関節のしょうがい	

23		頸部の機能解剖・しょうがい
24		頭痛に対する施術法と対処法
25		背部の痛みに対する施術法
26		背部の痛みに対する遠隔治療法
27		腰部の機能解剖・しょうがい
28		腰部の機能解剖・しょうがい
29		姿勢・歩行
		後期末試験
30		痛みの軽減と再発防止
その他の事項		

専門分野

(はき応用実習) シラバス

京都仏眼鍼灸理療専門学校
2022 年度シラバス

授業概要					
学 科	第 1 鍼灸科	学 年	3 年	学 期	前 期
単 位 数	1	必要時間数	30	実施時間数	30
担当教員	金井優也				
授業形態	実 習	教 室	第 3 実技室		
授業目的	鍼灸の治療方法は多種多様である。本授業ではこれまで学んできた知識・技術を連結させ、臨床で応用できるようになることを目的とし、卒業後、自身の治療を考える上での一助として応用的な鍼灸技術、あるいは希少な疾患について学ぶ。				
教科書	教科書は特に指定しない。				

具体的な到達目標	
目標 1	リスクマネジメントを含む安全な刺鍼・施灸ができる。
目標 2	東洋・西洋医学的治療の治療方法を理解し実践することができる。
目標 3	各疾患に対して適切な基本手技を行うことができる。
目標 4	臨床現場で使用する技術(ピコリナ・オームパルサー)を実践できる。
目標 5	
目標 6	
目標 7	
目標 8	
目標 9	
目標 10	

評価と試験			
前 期		後 期	
試験成績			
平常点	15% 算出方法	その他の事項に記載	算出方法
出席点	25% 算出方法	1欠席につき2点減点	算出方法
その他	60% 算出方法	学習シート20%、実技評価シート40%	算出方法
試験日	試験は実施しない		

* 追再試験、最終再試験にて合格の場合は、平常点や出席点、その他の評価は反映されず、試験成績のみが評価対象となります。

担当教員の実務経験	
実務経験	有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/>
教員の実務経験	[金井] はり師・きゅう師の免許を有する。免許取得後、教員養成科時代に附属治療院にて2年間の実務経験あり。鍼灸治療院にて2年間の勤務経験あり。本校附属治療所で3年間の実務経験あり。
実務経験をいかした教育内容	

授業の内容			
回数	日程	内容	備考
1		胸郭出口症候群に対する鍼灸施術	金井
2		パーキンソン病に対する鍼灸施術	金井
3		脱毛症に対する鍼灸施術	金井
4		末梢神経障害に対する鍼灸施術①(上肢)	金井
5		末梢神経障害に対する鍼灸施術②(下肢)	金井
6		脳卒中後遺症に対する鍼灸施術	金井
7		更年期障害・月経痛に対する鍼灸施術	金井
8		夜尿症・神経因性膀胱に対する鍼灸施術	金井
9		緩和医療への鍼灸施術	金井
10		不眠症に対する鍼灸施術	金井
11		肩こりに対する応用的な鍼灸施術	金井
12		腰痛に対する応用的な鍼灸施術	金井
13		膝痛に対する応用的な鍼灸施術	金井
14		総合復習	金井
15		総合復習	金井

その他の事項

学習シート：1～7コマ・8～15コマ終了ごとに授業内で学んだこと、今後どのように利用していきたいか等を所定の用紙に記入し、提出をする(各10点満点)。小数点以下は繰り上げにて算出。提出遅れは減点対象となるため注意すること。

実技評価シート：各授業内で実技評価を行う。全授業終了後に平均点を算出。小数点以下は繰り上げにて算出。

※評価内容：適切な刺入・深度を行えているか、適切な施灸を行えているか、施術中の姿勢は適切か、手際よく行えているか、道具の位置は適切か、危険行為はないか、消毒行為は適切か。

平常点：身だしなみ、実技道具忘れにつき1点減点、無断欠席・無断遅刻につき1点減点